

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		玉野市児童発達支援センター				公表日	令和8年3月12日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10	2	・部屋で密集しないように、個別やグループ活動で分散しながら活動スペースの確保を工夫している。	・個室スペースが不足している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	8	・適正な配置基準を満たし、その中でクラス担任が決まっているが、イレギュラーな場合や出勤によって偏りがある場合は、お子様の安全を優先し、両クラスの人員バランスを調整している。	・個別対応に人を配置すると、集団活動での人手不足が生じ、安全面が低くなる。 ・急な欠勤が生じると配置に苦慮する。 ・休務や休職を見通し、年度初めから職員数を増員しておく必要がある。 ・配置はしているが、常勤職員への負担が大きい。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8	4	・目的が分かりやすいよう構造化し、個別の特性に配慮している。 ・定期的に環境を見直し、改善するようにしている。	・建物の構造上、子どもにとっては分かりやすい生活動線にはなっていない。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	4	・日々の清掃と定期的な消毒によって、清潔に留意している。 ・子どもたちが楽しく通園できるよう動線となる廊下に壁画アートを創設。	・環境構造だけではなく、一貫した対応ができるよう職員同士の密な情報交換が必要。 ・建物の構造上、換気が良くないため、感染防止対策としての機器の設置が必要。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	12	0	・クラス環境だけでなく、廊下にもカムダウンとして一人になれるスペースを設置している。	・特に課題なし。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9	3	・毎日終礼を実施し、全体で課題を共有できるようにしている。 ・今年度より、パートの職員とも振り返りをする時間を作っている。	・十分な時間が確保できていない。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	1	・毎年度ガイドラインアンケートを実施している他、行事等においても適宜アンケートにて意向を把握し、次年度の改善に活かしている。	・特に課題なし。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	2	・職員会議等で事業状況については意見交換を行う機会としており、必要に応じて適宜面談も実施している。	・職務状況アンケートは毎年度配布しているが、それに対する面談機会が少ない。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	1	・コンサルテーションや園開放等の機会を使い、出来る限り外部からの目を入れるように工夫している。	・第三者委員等からの外部評価機会はできていない。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	12	0	・法人内、部門内、拠点内、事業所内等での研修機会が多く、職員からの研修伺いにも対応している。	・日々の業務に追われ、資質向上を図るような研修を受けられる時間が作れていない。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	11	1	・個々に合わせた一日の流れ等、共有して支援に当たっている。 ・2月中に公表予定である。	・公表はしているが、周知ができていない。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	11	0	・アセスメント力を高めるため、コンサルにて学ぶ機会を設け、多角的な視点を持てるよう取り組んでいる。	・懇談等でニーズの抽出は行っているが、保護者のニーズに応じたプラン作成が不十分なことがある。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	11	0	・子どもとかかわる複数人の職員でカンファレンスを行い、支援計画を作成するようにしている。	・正規職員が中心で検討を行っており、パート職員の意見が吸い上げられていない。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	11	0	・記録を閲覧、検索しやすいようシステムを導入している。	・全ての職員への共有までとはいかない。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10	1	・現在太田ステージでのアセスメントを実施しているが、その他 P E P 等も使えるよう、今年度研修で学んでいる。	・フォーマルなアセスメントを十分支援に活用できていない。	

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10	0	・プランの中でお子様の発達に応じた内容を設定し、ご家族に分かりやすく共有できる形で提示するようにしている。	・プランには提示されているが、日々の状況の中で支援内容に沿えない場合もある。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10	0	・児発管、クラス担任で話し合い、個々に合ったプログラムが作成できるようにしている。	・パートの職員が参加できていない。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	11	0	・月案を立てながら活動が固定化しないよう配慮している。 ・季節の遊びや行事なども楽しめるようにしている。	・構造上の課題があり、空間変化が持ちにくい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	12	0	・保護者や相談支援専門員との共通理解のもと、計画を作成し、低年齢児や入園したばかりのお子様には、個別対応をしっかりと取り入れ、段階的に集団への活動に移行していくよう配慮している。	・特に課題はないが、さらに深めていく工夫は必要である。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	12	0	・勤務表や週案カレンダー、日案にて活動状況（予定）について共有できるよう努めている。	・人員不足により毎回の実施ができていない。 ・パート職員は参加できていないことがある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	11	1	・クラスでの振り返り、全体周知の2段階で情報共有を行っている。	・パート職員が参加できていないことがある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	12	0	・記録システムを導入し、支援、リスク、健康管理等の項目を分けることによって、必要時にカテゴリ検索することによって、お子様の変化や今後の支援の手立てを検討することができる。	・支援記録の記載方法については、お子様の成長の積み重ねが客観的に明記できるようになれば良いと思われる。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10	1	・個々の必要な時期に保護者との懇談、相談支援専門員と担当者会議を開き、支援計画の進捗、今後の支援展開について、検討を行っている。	・特に課題はない。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	11	0	・児発管とクラス担任が参加しており、必要に応じてOT等の専門職が参加している。	・特に問題はない。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	1	・必要に応じて関係機関に声掛けすることはできているが、目標は一人一人への支援連携体制構築を行っていく必要がある。	・災害対策を含めて、協議会を通じて一人ひとりに応じた支援体制の構築が必要と思われる。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9	1	・就学や地域移行に向けて地域の園との交流機会を設けている。	・情報共有と相互理解を図るようにはしているが、必要なタイミングでの連携の取り方を検討したい。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	11	0	・学校への訪問や就学前に必要な情報は共有するよう努めているが、さらに積極的な連携は必要と思われる。	・必要に応じてできているが、現状は受け身の連携であり、当方の中でも関係機関への理解が薄いように思われる。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	9	2	・現状は協議会の子ども部会を通じて、取り組みの共有等は行っているが、地域全体としては人材育成、資源開発に繋がる研修等の取り組みは必要であると感じている。	・法人内の事業所とはできているが、資源が少なく、各事業所とも手いっぱいのところもあり、地域での連携は課題がある。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	10	1	・支援に関する根拠や組織作りを目的として、専門家からのコンサルテーションを定期的に受講している。	・コンサルでの助言は勉強になって良いが、外部研修に参加できる機会が少ない。 ・全職員が研修を受講していないため、経験や感覚での支援が見受けられる。
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	10	0	・毎回参加している。	・協議会として、インクルージョンの仕掛け等地域へのアピールは必要と感じている。
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	7	・マルシェ開催により、近隣の園には参加の呼びかけをしている。 ・近隣の幼稚園の園庭に遊びに行かせていただく機会を設けている。	・園児全員が交流する場がないため、少しずつでも交流の場を持つ必要がある。 ・限られた利用児しかできていない。	

	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	12	0	・ 降園時にタブレットを用いて、保護者に分かりやすく様子を伝えている。 ・ センターやご家庭での様子について、連絡帳アプリを通して保護者の方と共有している。	・ 特に課題なし。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	10	1	・ 拠点内の別事業所が中心となってペアトレの企画を行っており、その企画については保護者に情報提供している。 ・ 家族会が主催する勉強会に当方で講師を受け、多様な講義を行っている。	・ 必要と思われる家族に対して実施ができればと思われるが、個別にはできていない。 ・ 保護者の就労のためか、研修会への参加は特定の保護者が多いと感じる。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	11	0	・ 入園児や契約書、重要事項説明書に変更があった際には書面、口頭で説明している。	・ 特に課題なし。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	11	0	・ モニタリング等の懇談にて聞き取りを行い、計画に反映しているが、本来は更に細やかなコミュニケーション機会が必要であり、日ごろからの会話でニーズ抽出できるよう努める。	・ 懇談時に家族の思いをお聞きするが、まだまだ十分には聞き取れていないように感じている。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	11	0	・ 説明の後に同意を得ている。	・ 特に課題なし。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	11	0	・ 家族発信や事業所発信により、適宜必要な面談はできていると思われる。また、バス利用のご家族には電話等でも相談できる体制を整えている。	・ バス利用の保護者とのコミュニケーションが少ないように感じる。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	9	2	・ 保護者会主催の勉強会や座談会を開いているが、きょうだい児については、当方も今後の学習課題として取り組んでいく。	・ 保護者支援はできていると思われるが、きょうだい児支援はできていない。 ・ 現状ではまだまだ機会が少ない。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	11	0	・ 児発管を中心に、家族からの申し出については迅速に対応するよう努め、必要に応じては専門家も交えて対応させて頂いている。	・ 相談内容については、一部の職員にしか伝わっていないことがある。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	11	0	・ 毎週HPの活動報告をアップデートし、日々の様子をお伝えしているとともに、通信によって先の予定を周知している。	・ 特に課題なし。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	12	0	・ 不要な書類、メモはシュレッダーにかけよう気を付けている。 ・ 肖像権については、配布前に各家庭に確認している。	・ 職員室等での会話にも更に情報漏洩防止の意識徹底が必要と思われる。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	12	0	・ 個別に配慮したスケジュールや視覚支援、環境設定を行っており、保護者に対しても不安がないよう個別的な説明や補足を行い配慮としている。	・ 視覚支援や環境設定により配慮しているが、お子様の成長に応じてという面では、支援者間の共有が必要と思われる。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	11	1	・ 地域の方との交流が図れるよう年に一回マルシェを開催している。	・ 地域住民が施設内を訪問する等の交流は消極的である。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	12	0	・ 訓練は法令に基づき実施し、都度家族にも状況報告を行っているが、今後の災害対策については協働訓練の実施は必要と思われる。	・ 全員参加や地域の方たちと一緒に実施する機会があっても良い。 ・ 家族に周知していないものもある。
	46	業務継続計画 (BCP) を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	12	0	・ 災害対策として、地震や火災、津波等の様々な状況での想定訓練を実施し、年一回は消防署にも協力を要請し、訓練を実施している。	・ 職員間の細かい打ち合わせが必要。 ・ それぞれの役割分担についての認識が薄い。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	11	0	・ 入園前のアセスメントや日々の様子観察を通して、保護者と確認している。	・ 現状のところ、保護者との情報共有は図れているものと思われる。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	11	0	・ 栄養士と毎月、給食会議を実施し、情報共有を図るとともに、アレルギー対象児には献立表を事前に確認頂き、ダブルチェックでの事故防止に努めている。 ・ 年度途中で症状が確認された場合は、受診と検査を勧め、安全な食事提供ができるよう努めている。	・ アレルギーについては、情報不足のケースがある。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10	0	・ 担当を振り分け、日々の安全点検とヒヤリはっとの検証によって、事故防止に努めている。 ・ 修繕が必要な箇所については、早期に修繕依頼し、二次災害が発生しないよう留意している。	・ 建物の建築年数や構造上、十分とは言えない。

50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10	0	・物理的対策として、防犯カメラや施錠、電話連絡等のシステム化はできている。	・物理的（防犯カメラ・施錠）対策については周知できているが、それに準ずるソフト面についての周知は十分ではない。
51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	12	0	・ヒヤリハットはクラス単位で共有し、検証する機会を設け、部門内のリスク委員会とも連携し、研修機会を設けている。	・ヒヤリハットの報告件数は未だ少ないように思われる。
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	12	0	・月に一度全体で振り返りを行っており、法人内の虐待防止委員会と連携し、研修の設定や個々のアンケートによって、虐待の芽を把握する取り組みを行っている。	・定期開催ができている状況であるが、日々の支援の中で虐待に繋がる振る舞いについては、相互検証を行う機会は少ない。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	10	0	・お子様の安全を最優先するために、支援計画に記載し、保護者には同意を頂いたうえで実施し、機会があった場合には報告を行っている。	・行動制限や叱咤の支援が身体拘束に繋がっていることの理解ができていない場合がある。